

施策 No.	政策名	みんなで築く自治のまちづくり	主管課	財政課	主管課長名	青木 康博
6-5	施策名	健全な財政運営の推進	関係課	企画課、総務課、税務課、収税課、会計課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市の財政	①一般会計歳入決算額(見込値は予算額)		百万	見込値	21,430	18,950	17,926	16,904	18,220	
実績値					20,201	19,984	18,734	25,511			
②一般会計歳出決算額(見込値は予算額)				百万	見込値	21,430	18,950	17,926	16,904	18,220	
					実績値	18,981	18,533	17,072	23,083		
財政運営が安定し、財政状況が市民に分かりやすく伝えられている。		③財政力指数		-	目標値	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	
					実績値	0.49	0.49	0.49	0.49		
			④市税の収納率(現年度)		%	目標値	98.3	98.3	98.5	98.5	98.7
						実績値	98.4	98.5	98.2	98.2	
			⑤ふるさと応援寄附金の額		千円	目標値	14,500	15,000	15,500	16,000	16,500
						実績値	14,760	19,396	22,031	19,845	
	成果指標設定の考え方		健全な財政運営ができるかどうかは、①市民一人当たりの貯金額、②市民一人当たりの借入金残高、③財政力指数、④市税の徴収率(現年度)、⑤ふるさと応援寄附金の額で見る。								
	成果指標の把握方法と算定式等		①市民一人当たりの貯金額(基金残高÷人口)、②市民一人当たりの借入金残高(市債残高÷人口)、③財政力指数、④市税の収納率(現年度)は、決算カードより求める。⑤ふるさと応援寄附金の額は決算書より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たりの貯金の額は、令和元年度191千円から令和2年度187千円に減少した。昨年、旧県西総合病院の解体にあわせて、旧県西総合病院から継承した事業債を繰上償還するために、減債基金を2億5,300万円を取崩したためである。 市民一人当たりの借入金残高は、令和元年度486千円から令和2年度500千円と増加した。大規模事業の実施に伴う市債の発行額が増加したためである。 財政力指数は、令和元年度0.49、令和2年度0.49と横ばいであった。 市税の収納率(現年度)は、令和2年度98.2%で令和元年度と変わらず横ばいで推移している。 ふるさと応援寄附金の額は、令和元年度22,031千円から19,845千円に減少した。要因としては、高額な寄付者が減少したためではあるが、寄附件数そのものは増加している。 <p>全体的に成果指標は低下傾向にあるが、市税の収納率はコロナ禍にも関わらず昨年度と同率を維持した。また、基金残高は、市債の繰上償還の財源として減債基金を計画的に活用したため減少したものである。よって、昨年度との成果比較を「どちらかといえば低下」と判断した。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たりの貯金の額は、目標値を37千円上回る事ができた。 市民一人当たりの借入金残高は、160千円上回ってしまった。 財政力指数は、0.06ポイント下回った。 市税の収納率は、0.3ポイント下回った。 ふるさと応援寄附金の額は、3,845千円上回った。 		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な財政運営の推進には、コロナ禍のなか収納管理事務、滞納管理事務が大きく貢献した。 ふるさと納税への関心の高まりから寄付額は減少したものの寄附件数は増加し、ふるさと応援寄附金事業が大きく貢献した。 	<p>今後も大きなプロジェクトが続いていくなかで、健全な財政運営を行うためには、財政計画を作成しながら、予算編成を行う必要がある。</p> <p>市税の収納率については、今後も引き続き、その向上に向けた事業を実施していく。</p> <p>ふるさと応援寄附金の額の向上に向けて、更なる返礼品の開発をしていく必要がある。</p>